

はるその 常北高校

子どもと遊ぼう

10月24日 総合の時間に、常北高校に乳幼児と保護者を招いて、本校2年生と乳幼児が交流しました。ポスターやチラシで参加者を募ったところ、30組の親子が集まってくださり、約1時間折り紙やシャボン玉などで遊び楽しいときを過ごしました。

鳥澤 ユカ（常北中出身）

あんなに来るとは思わなかった。みんな楽しんでよかった。改めて保育士は大変だと思った。またやってもイイなあと思った。みんなかわいかった。

高野 有貴（常北中出身）

折り紙は失敗してしまっただけで、とても楽しく子供たちと遊べてよかったと思う。次やるときは音楽を使ってやってみたいと思った。

清水恵梨香（桂中出身）

幼児が思ったより多くてびっくりした。みんなすごく元気で楽しかった。でも、幼児を預かるのは随分と重労働だなと思った。

保護者の皆さんからの意見

（お子さんの年齢）

★子供も大人も交流の一つとしてよいことだと思いました。（3歳）
同様8件



★高校生同士で集まって、子供がよって来るのを待つのではなく、子供に声をかけてもらえた方が、子供は心を開きやすくなります。（4歳・8ヶ月）同様3件

★紙芝居の前は手遊びなどで一度落ち着かせてからやると集中して子供も聞き入ると思います。（3歳・11ヶ月）

★全体的に声が小さいので子供にわかりやすくやって欲しい。（3歳）

★まだ年齢的に絵本や紙芝居などじつと見ていることができないのであやしてもらっているだけで楽しいようです。いないいないばあやまてまてと追いかけたりするとよく遊びます。（1歳4ヶ月）

たくさんさんの貴重なご意見をありがとうございました。次回に生かしていきたいと思います。これからも楽しい企画を計画いたしますので、ふるってご参加ください。

留学生との交歓会

10月3日の1年生を対象とした総合の時間では、国際理解の一環として、茨城大学で勉強中の留学生を6人をお招きしました。生徒たちは留学生の出身国であるメキシコ、コスタリカ、中国、ベトナム、インドネシア、マレーシアについて事前に学習し当日に臨みました。留学生たちの日本語での懸命な説明により、生徒たちは異なる国の文化を学ぶとともに、相互理解の大切さも感じたようです。



川崎 真（常北中出身）

ヴァンさんの故郷、ベトナムの話はとても興味深くおもしろかったです。その話の中で特によかったのが生活面の話です。ベトナムと日本の生活はまったく違うことを知りました。仕事のためにはバイクを使うこと、食べ物では一度食べたらもう一度食べなくなるフォーという麺があること。いつの日かベトナムに行ってみたいと思いました。ヴァンさんにはいろいろなことを教えてもらって感謝しています。この授業を受けて本当によかったと思います。

高松 由貴（常北中出身）

私は総合の授業のときに中国について勉強した。まずは本で中国の面

積や人口について調べたら、中国はとても広く人口が多いことがわかった。次の授業では留学生の方々が学校に来てくれて、中国についてさらに詳しく教えてもらった。その中でも印象に残ったのが家庭内の行事がたくさんあるということだ。また私の名前の中国語での読み方を教えてもらったが、日本語の読み方より長くて驚いた。その名前の発音は少し難しかったので、まずは「こんにち」は「さようなら」を覚えたいと思った。方さんは日本語がとても上手でとても勉強したんだと感じた。私ももっと勉強して英語だけではなく中国語も話せるようになりたいです。

加藤依里香（桂中出身）

私はこの前の総合の時間にメキシコについて学習しました。軽い気持ちで6つの国からメキシコを選んだのですが、コントレラスさんの話を聞いてとても興味を持つことができました。メキシコについて一番驚いたのは、サボテンを使った料理があるということ。主にゆでたりして食べるそうです。日本では考えられない料理なので、食べてみたいと思いました。コントレラスさんとはとてもお話しできていました。今回の授業を通して、こんな風にみんなが他の国の人たちと触れ合うことで、世界の人たちが仲良くなり、もっとと平和な世界になれば素晴らしいと思います。